

# 中部自治会防災ニュース

ごあいさつ

3月11日の東日本大震災、福島第一原発事故から早くも2カ月が過ぎましたが、まだ被災者の方々は大変な生活を送っておられ、一日も早い復旧を祈るばかりです。

横浜市にも近い将来大きな震災が起きる確率が高いと言われていています。私たちが当自治会の理事として、美しが丘中学校や美しが丘小学校の防災拠点にも関わることとなった機会に、防災や減災に関する事で皆さまにお知らせしたいことを、中部自治会防災ニュースとしてまとめ、一年間お届けします。

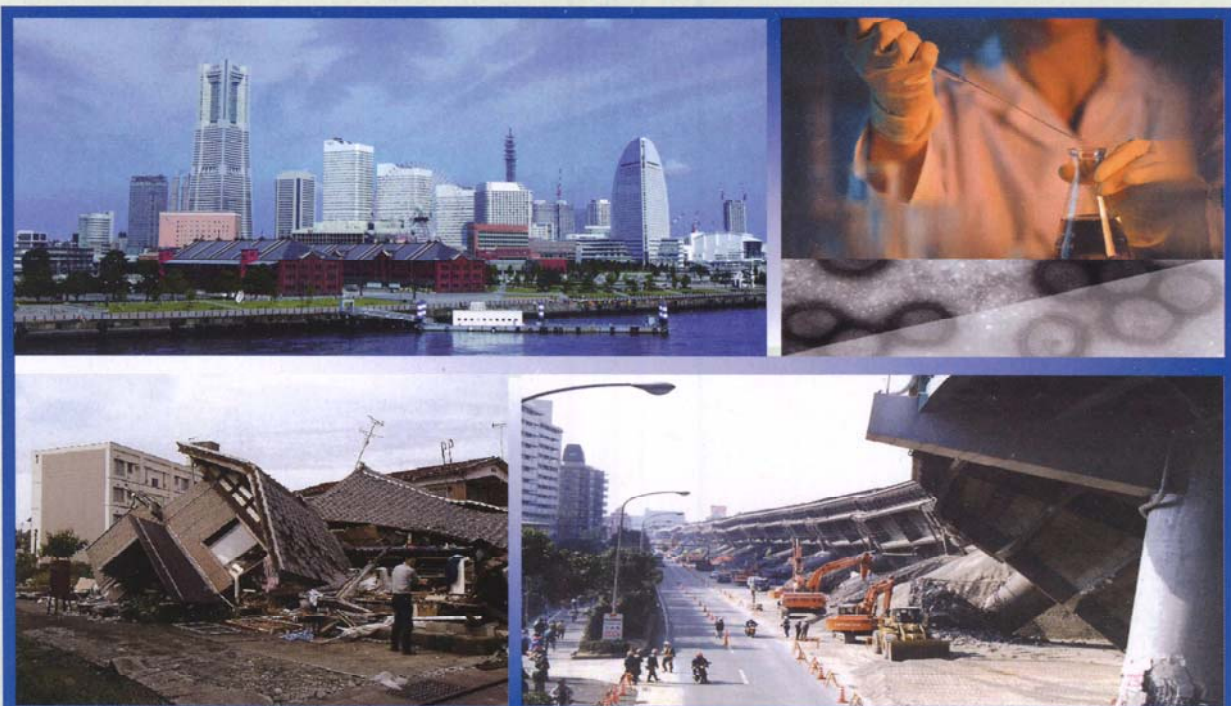
今回は横浜市のパンフレットの中から抜粋して、まず食糧や水、トイレの対策についてご案内します。是非ご一読いただき、ファイルとして保存もお願いいたします。  
美しが丘中部自治会 平成23年度理事一同

わが家の安全対策

## 「減災行動」のススメ

～“危機意識”と“実際の備え”のギャップ  
その差を埋めるための「今すぐできる7つのアクション」～

「減災行動」とは、災害による被害をできるだけ小さくするための取組



## アンケートでは……

### ■家庭での備蓄の 必要性

災害発生直後は、物資の調達や供給が困難になります。家庭内で3日分の食料等を備蓄するとともに、必要な物品を準備して、いざというときにすぐ持ち出せるようにしておきましょう。

Q. 避難所生活で、最も充実してほしいこと

項目	割合
食料・飲料水の提供	90.5%
トイレ	86.7%

ギャップ

### 対策の現状

食料・飲料水・トイレパックの備蓄状況	割合
食料・飲料水ともに、備蓄していない	30.5%
トイレパック(携帯トイレ)を備蓄している	10.8%

## 減災に向けた取組

### 備蓄にあたってのポイント

- ▲家族の構成や状態を考慮しましょう！  
(ご家庭に「乳幼児や高齢者の方」「加療中や薬を服用中の方」などがある場合)
- ▲定期的に入れ替える！(食品の賞味期限などの確認)
- ▲まとめて、すぐに取り出せる場所に！(非常用持出袋の準備)



### 食料

レトルト食品や缶詰など、簡単に食べられるものを用意しておきましょう。また、アレルギー体質や加療中の家族のための備えもしておきましょう。

#### ●備蓄食料の管理方法

購入した食料を一定期間保存し、賞味期限内に消費します。消費の直前または直後に次の食料を購入する「ランニングストック」で管理しましょう。



### 水

「1人1日3リットル」の飲料水が必要とされています。家族が3日間生活できる量を目安に用意しておきましょう。また、風呂の残り湯は、捨てずに溜めておきましょう。消火用水、断水時のトイレの排水用等に活用できます。

#### ●水の備蓄方法

- 飲用水は「ペットボトル」や「水缶」。
- 清潔保持用水は「ポリタンク」。
- トイレ用水は「風呂の残り湯」。



### トイレパック

水が止まっても、自宅のトイレを使って生活ができるよう、トイレパック(携帯トイレ)を用意しておきましょう。「1人あたり15個(1日5個×3日分)」が備蓄の目安です。

#### ●トイレパックって？

- 家庭のトイレなどにセットして使用する「凝固剤」と「処理袋」のキット(用具)です。
- 処理が簡単で衛生的です。
- ホームセンターなどで購入することができます。

